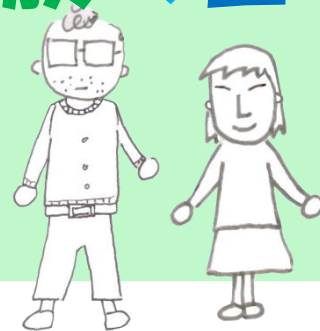
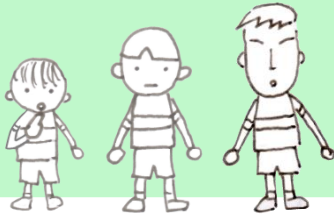


知的発達障害の家族の日々

6

大谷 多加志



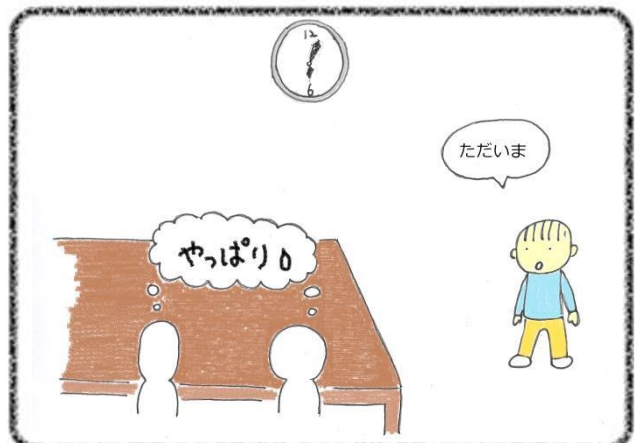
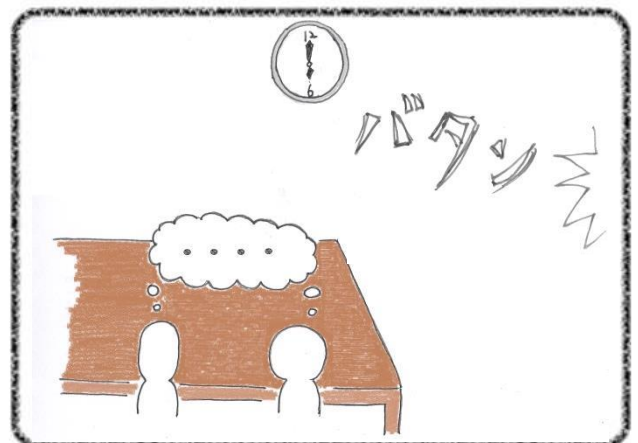
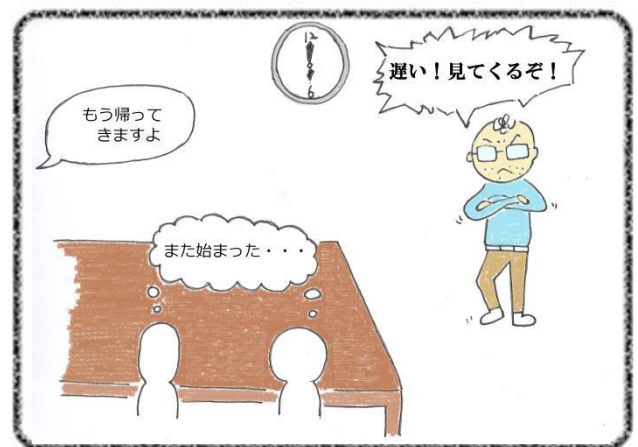
間が悪い

父と弟はどうしても間が合わない。近所の踏切に電車を見に行った弟が暗くなっても帰って来ないと、落ち着かなくなり「見てくる！」と言い出す父。いつもそのうち帰って来るので、「ほっとけばいいのに」と気にしない他の面々にもいら立ちながら、家を出ていく。

すると決まって数分後に、弟が帰ってくる。それもいつも行き違いになる。いるはずもないのに、父は踏切の周辺や線路沿いの道を探しているのだと思うと、気の毒になる。

帰ってきた弟は、「腹減った！」と言い、すぐに夕飯を食べたがるが、父が帰ってきた時、先に食事が始まっている腹立たしいだろうと思い、結局待つことになる。

基本的に父は弟に甘い。子どもの頃は一番年下だし、知的障害があるからだと思っていたが、今は弟の障害について父が罪悪感を持っていたことが根っこにあるのだろうと思っている。あれから 20 年、2 人の間の悪さは、相変わらずだ。



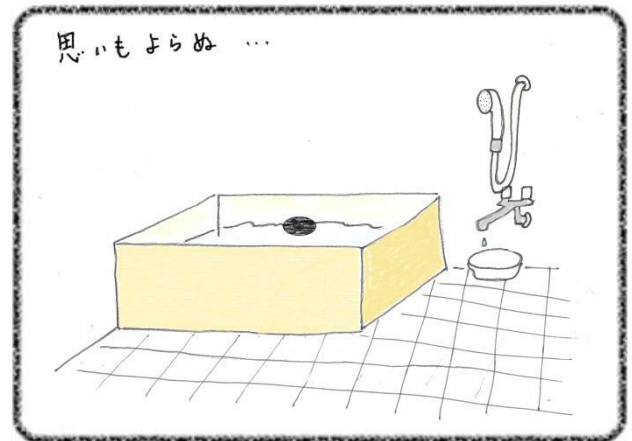
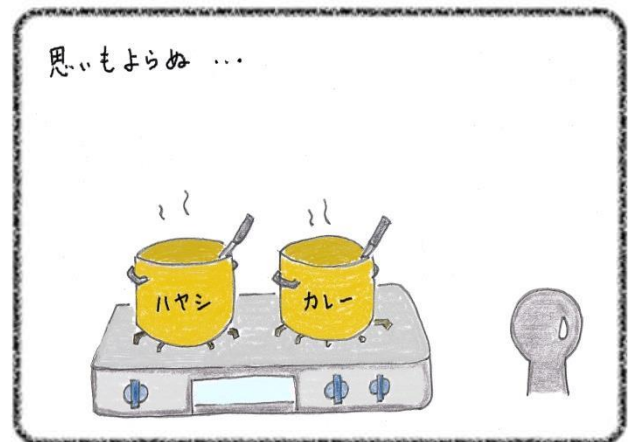
思いもよらぬ・・・

子どもが生まれた時、哺乳瓶やおむつなど、色々な育児用品を購入した。そのとき見たカタログに「おしっこキャップ」というものがあった。おむつを替える時に赤ちゃんがおしっこをしたら、それをかぶせるというのだ。結局購入はせず、おしっこをひっかけられることもなかったが、“そうか、いつどこでうんちやおしっこをするかわからないんだ！”と思い、最初は身構えながらおむつを替えていた。お風呂でもうんちに警戒していた。お風呂のうんちを警戒したのには、たぶん訳がある。過去に“お風呂に浮かぶうんち”を見たことがあるからだ。

障害を持つ家族と暮らしていると、ときに思いもよらぬことに出くわす（もちろん、他の家庭でもあり得なくはないのだろうけれど・・・）。お風呂のうんちを含め、思い出したものを書いてみた。

- ①小学生のとき、カレーとハヤシライスが同じ日の食卓に出るようになった。
- ②中学生のとき、お風呂場で弟のうんちを踏んだ。
- ③大学生のとき、「外出先でもらした」と電話でSOSを受けた。

だからどうということはないのだけれど、日常に意外性があったなあと、振り返ってみて思う。



①のカレーとハヤシライスが同じ日に登場するようになったは、ある出来事をきっかけに弟がカレーを食べなくなり、

なおかつ父はハヤシライスを食べないため、弟用のハヤシライスと父用のカレーが並ぶようになった。弟がカレーを食べなくなったのは、父が作ったカレーがきっかけだった。たまたま母が不在か何かで、珍しく父が夕食を作ったのだが、それがカレーだった。そのカレーに、ルウが溶け残っていて、さらに運の悪いことにそれが弟に当たったのである。「辛いもの食べられた！」と憤慨した拳句、その後は誰が作っても、どんなルウを入れてもカレーを食べなくなった。こういう柔軟性のなさも、弟の特徴だ。弟には知的障害の診断しか出ていない。今の診断の基準や傾向だったら、どういう診断名になったのかな、と時々思うことがある。

②は私が中学校で、たぶん弟は小学校の高学年の頃。お風呂に入った時点で、何か漂う臭いに違和感を覚えたのは記憶している。最初、何かを踏み、湯船に浮かぶ物体を見つけても、すぐには頭が認識できずにいた。さすがに弟も気づいていなかったわけではないが、何も言わずに知らん顔をしているのが、なんとも腹立たしかった。

③は、私が大学院生、弟は養護学校の高等部を卒業し、仕事をしている頃だった。日曜日で、両親は用事で不在。弟は電車で遊びに出かけ、最後に残った私も大学に用があって家を出ようとしていた時だった。出掛けに鳴り出した電話に出てみたところ、「おれなんだけどお、も

れちゃったんだ。どうしたらいい？」と困惑した声。どうしたらいいかはこっちが聞きたい気分だったが、とにかく現在地を確認し、動かないように言い含めて車で迎えに出かけた。弟は、他者の視点があまり理解できない。そのため、“待ち合わせ”の意味がよくわかっていない。自分からは待ち合わせ場所に見に来たりはするのだが、自分は待ち合わせ場所から平気で動いてしまう。それで、行き違いになるのだが、彼目線では「待ち合わせ場所に見に行ってもいつもいない！」という認識になる。たぶん電話を切った直後に待ち合わせ場所に行き、すぐに来ないことにしびれを切らせて（じっとしてられなくて）うろろうしてしまうのだと思う。この日も案の定、待ち合わせ場所にはいなかった。勘を頼りに探したら幸運にもすぐに切符売り場に立ち尽くしているのを発見し、事なきを得た。

もらしたのは大きい方で臭いも強かった。車で来たのは正解だったなと自画自賛。家を出るぎりぎりのタイミングで連絡をとれたことも含め、我が家では「幸運だったなあ！」という感想でまとめられる出来事になっている。